

軸受けローラーの東振精機

設備増強 BCCP強化

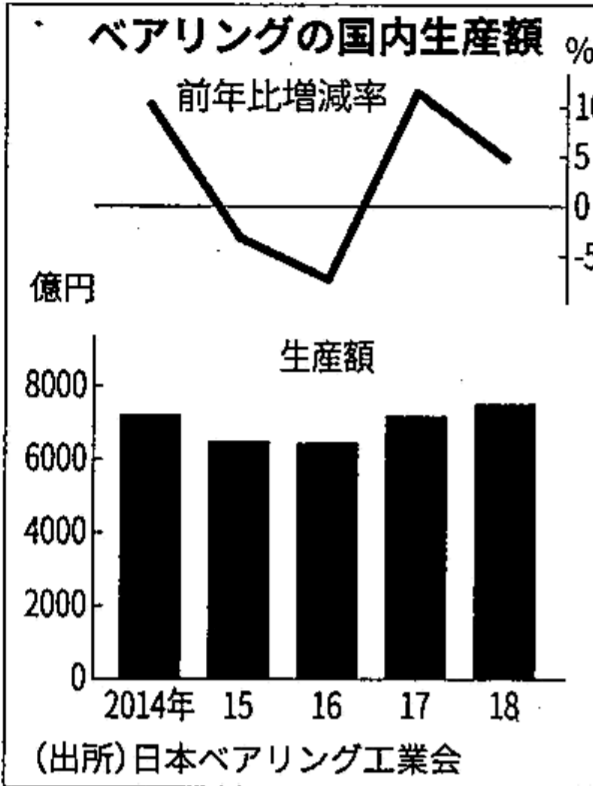
ベアリング(軸受け)用ローラー専門の東振精機(石川県能美市)は、主力の産業機械向けローラーの生産体制を強化する。能美市内の熱処理工場を改築・刷新して耐震性を高めるほか、別の生産拠点でも設備を増強。ボトルネックとなっている熱処理工程の能力を高める。全国的な災害の頻発に対応し、非常時の供給力を高めることで国内シェア維持を狙う。

自前の熱処理能力高める

ベアリングは機械や自動車に供給している。特殊鋼や強度を高める熱処理工程を1万分の1の単位で精密に加工する技術が強みで、主に産業機械に使う円筒形・球面状のベアリングローラーは7割程度の国内シェアを握る。今回の投資は工作機械や建設機械などのベアリングに使う主力品種の増強が目的で、金属の硬度

熱処理はあらゆるローラーの生産に必要な重要工程だが、処理能力の不足分を外注に頼っている。地元企業に加えて県外企業に依頼しているものもあり、災害時などに道路網が影響を受けるとサプライチェーンが滞る懸念があった。

地震や豪雨など近年の災害多発を踏まえ、事業継続計画(BCCP)に関する納入先の求めに対応する。工場の刷新と設備増強で自前の熱処理能力を強化。内製比率を1割ほど引き上げる。非常時の供給体制を保つことで受注を確保し、シェアの維持・向上を図る。輸送など外注コストの軽減や生産性向上にもつなげる。一連の増強に伴う投資額は約15億円を見込む。



東振精機は1956年設立。2015年には中国・蘇州で、ベアリング国内最大手の日本精工と自動車向けベアリングロ

ローラーの合併工場を本格稼働させた。さらに16年には能美市の工場を増設し自動車分野のローラー生産を拡大。18年11月期の連結売上高は過去最高の132億円に達した。

日本ベアリング工業会(東京・港)によると、18年のベアリング生産額は約7510億円と前年比4.6%増えた。企業の旺盛な設備投資意欲を反映し、機械や自動車向け全般に受注を伸ばした。一方、米中貿易摩擦で事業環境の不透明感が強まった年明け以降は生産が減少傾向にある。東振精機も19年11月期は数億円の減収を見込む。

同社は22年度を最終年度とする中期経営計画で、グループ全体の売上高を200億円に増やすのを目標とする。主力の機械向けのローラーを伸ばすとともに、自社で開発する研削盤の販売や保守といった事業を育成し成長力を高める考えだ。

(小野嘉伸)